

メールマガジン 2024年12月

イエス様の御降誕のお祝いを申し上げます。祝福の内にクリスマスをお迎えのことと思います。今年も一年間、大勢の方々の篤い信仰によって支えられたことを心から感謝申し上げます。今年は来年の日本への本帰国を念頭に置いての日々でしたので、一つひとつのことが万感胸に迫るものとなりました。

いよいよドイツでのクリスマスは最後となりました。キリスト教国であるドイツは大統領、ヴァルター・シュタインマイヤーによる伝統的なクリスマス演説があります。そしていつも賑やかな街は一転し、「静寂・厳粛」ムードになります。人々の教会離れが著しい昨今ですが、クリスマスだけは家族揃って教会へ行き、その後、各家庭でクリスマスのお祝いをするので、会堂は満員になります。華やかなクリスマスマーケットは、殆どが12月23日で終了となり、商業施設は24日午後から26日迄閉店です。公共交通機関も大幅に減便され、車も人も見かけなくなり、大袈裟ではなく音のないような世界へと一転します。とても静かな正に「聖夜」です。日常の生活から聖別(世俗的なこの世から区別)され、特別な時となるのがドイツのクリスマスです。

さて、私たちの教会のクリスマスは、恒例の教会員総動員のページェント礼拝をお捧げしました。昨年に続いてブリュッセル教会の方々もいらして、ご一緒にお祝いできました。祝会にはボンヘッファー教会のG牧師も参加されショートメッセージを頂きました。G牧師は来年4月に教会を離れるので、お互いにケルンでのクリスマスは最後になる為、一層親しみが湧きました。色々な面で尊敬する先生でした。

今年は、ケルン・ボン教会の皆様のご理解とご協力を頂いて、三年前から無牧になっているブリュッセル教会へ月に一度通い、説教・聖餐式、子どもの礼拝等の奉仕をさせて頂きました。信徒の方々が教会を懸命に支えておられ、その熱意に何とかお応えしたいという思いで通った一年間でした。帰国直前、2月23日には洗礼式も執り行う予定です。主は見える形で教会の方々を励ましてくださっています。今後については、私たちの知恵等ではどうにもならないことが多々あります。だからこそ、主の御業に期待しています。「見よ、新しいことをわたしは行う。今や、それは芽生えている。」(イザヤ43章19節)の御言葉を信じて残された日々を過ごして参りたいと願っています。更にお祈り頂けると励まされます。

新しい年、2025年も依然として厳しい社会状況は変わらないかもしれませんが、信仰が与えられていることに感謝して歩めたらと願っています。また、悲しみや苦しみの中におられる方々が少しでも肩の荷を下ろすことができますように祈っています。主にあって恵み豊かな年となりますようにお祈りいたします。一年間の感謝を込めてドイツより。

「支える会」のホームページにはドイツの様子がわかる写真も掲載しています。過去のメールマガジンも見やすくなりましたので、是非ご覧ください。<http://www.komatsugawa-ch.com/PfarrerIn-Ryokosasaki/mailmagazine.html>

ボンヘッファー教会のゲッパート先生と



ケルン大聖堂前
クリスマスマーケット



毎年お馴染みのページェント礼拝

